

るのである。彼はそのため、具体的には宗教については二巻のデュルケームの「宗教現象の定義」において最初に言及されている Max Müller の *Origin et développement de la religion* (仏訳) などのほか、Mauss や Hubert の協力によって文献関連の批判的紹介に Tieler, *Inleiding tot de Godsdiens Wetenschap* (Amsterdam, 1897 p. VII-273.) や Grant Allen - *The Evolution of the Idea of God*, (London 1897 p. 447.), Hardy, *Was ist Religionswissenschaft* (1898, S-42. in Archiv f Religionsw), Daniel G. Brinton, *Religion of Primitive peoples*, (London 1897, Amer. Lect on the History of Relig. p. xvi-364.) などあげている。また家族の結婚に関するものにもわたるが K. Kohler, *Zur urgeschichte der Ehe, Totémismus, Gruppenehe, Mutter-recht*, (1895), Baldwin. Spencer and F. J. Gillin, *The native Tribes of central Australia*, (London 1889, p. 671). Franz Boas, *The social organisation and the secret societies of the Kwakiutl Indians*, (Washington p. 428.) など多数の文献があげられている。社会学隣接部門で社会学に関係があると見られる文献批評の数は年報全件で数百に及んでいるが、このうち上述した若干の実例を示したような著作も非常に多くデュルケームはその点でモースとともに協力者群の文字どおり牽引車の役割を果たしていたのである。ところで年報協力者の数は刊行の進むにつれて増加しているが、第一巻からの協力者はブーグレ、モース、ユベル H. Hubert、フォーコンネ Fauconnet、パロディ D. Parodi、リシャール G. Richard、シミアン Fr. Simiand ら 7 人と若干の人々である¹⁶⁾。この協力者たちのチーム組織はどうなっているかを見るのだが、その前にこの年報の第二巻にふれたようにデュルケームは宗教社会学がしめる重要性を示唆していたが、これと関連して年報の目的の第一を占める独自の論考 *Mémoires originaux* の内容に立ちいって考察しておきたい。これは協力者間の関係するものであるが、また協力者の年報への

貢献の順序を示すものとなるからである。

III

上述したように年報に対する協力者の数は約 20 人近くにのぼっているが、独自の論考^{16')}を年報に掲載した人はそのすべてではない。協力者は隣接分野の科学における文献の批判的紹介を担当した人たちである。Philippe Besnard の編纂した著作 *The Sociological Domain* は副題を *The Durkheimians and the founding French Sociology* としているが、デュルケームの社会学、および同氏を中心とするチームの業績について客観的にその真の意義を検討した最初の著作であるといえよう (1983 年刊)。この著作にはこの著作の編者ベナル Philippe Besnard をはじめ CNRS の研究員でこの著作刊行当時、ベナルとともにパリーにあったデュルケーム研究グループの一員であったモハメド・シェルカウイ Mohamed Cherkaoui (現スイス、ローザンヌ大学教授)、シカゴ大学の教育史の教授である (刊行当時) クレイグ John E. Craig、クレルモン・フェラン大学教授で CNRS 研究員をかねているピエル・ファヴル Pierre Favre、アメリカのイエール大学の社会、政治研究所の調査員 Research Associate のガイガー Roger Geiger、デュルケームの遺稿テキスト III 巻を編集、刊行したヴィクトル・カラディ Victor Karady、パリーの社会科学の高等研究院の教授、イザンベール François A. Isambert、アメリカのニューヨーク州立大学の教育、社会思想部教授のヴォクト W. Paul Vogt およびカナダのモントリオールのマクギル大学の医学史教授 ジョルジュ・ワイズ George Weisz の計 9 人である。このベナル Besnard の編著はそれまでかかれたデュルケーム学派についての研究を根本的に実際の文献、記録を丹念によみ直してくつがえしたすぐれた研究書である。この書はフランスの社会学評論 *Revue Française de Sociologie* の 1979 年のデュルケーム特集号に発表された諸論文

16) 独自の論考とは *Mémoires originaux* に対する筆者の訳語である。(適当なものが見つからないが、一々原語を使用するのも繁雑だからこの訳語を用いる)

16') Y. Nandan の E. Durkheim によると最初からのメンバーはこのほか G. Bourgin, Demangeon, Halbwachs, Jeanmaire, Emm, Lalo, Ray, Roussel がある。